

「全日本病院協会総合医育成」事業について

2017年11月10日

（本事業の背景）

- 我が国の社会構造の変化と医療の持続可能性への不透明感など、病院を取り巻く環境は激変している。
- 全日本病院協会（以下、全日病）は、地域に密着した診療活動の中で実体験として、病院を取り巻く環境の変化への強い危機感を持っている。
- 全日病は、時代に対応する病院像をこれまで常に希求し対応してきたが、さらなる対応策として本事業を開始することとした。

（本事業の目的）

- 協会会員施設に勤務する一定のキャリアを持つ医師が、すでに個々が有する専門性や経験を生かしつつ、さらに診療の幅を広げる。
- 日本専門医機構にて育成が始まる総合診療専門医のコンピテンシーを理解・共有し、将来的に、専門医との職場における協働による相乗効果を期待。
- 地域包括ケアにおける複雑な課題への対応能力を高め、同システムの機能強化と住民からの信頼を得る医師の育成。
- 総合的・俯瞰的に当該病院機能の改善をはかることができ、かつ病院組織の運営に積極的に関与できる人材としての医師を育成。
- 病院内外の医師および連携施設、そして関係する多職種との連携をスムーズに行うことができる医師の育成。

（対象者と概要）

- 対象：原則として医師経験10年目以上で、本プログラムでの研修を希望する協会施設の全ての診療科の医師。
- 期間：1年間を基本単位とするが、職場や個人の状況を考え1年から3年の柔軟な運営。
- 認定：「全日本病院協会認定総合医」として認定証を発行する。
- 募集開始：平成30年1月
- プログラムの開始時期：平成30年7月

（プログラムの構成）

① 診療実践

指導医の支援、全日病による支援体制を受けながら自施設で診療・実践を行うことを原則とする。

② スクーリング

「診療実践コース」、「ノンテクニカルスキルコース」、「医療運営コース」の3コースから構成される。

③ eラーニング

プライマリ・ケアの実践に役立つ録画されたレクチャーをe-learningシステムとしてオンデマンドで配信する。

(認定と更新制度)

- 指導者：総合医療に造詣のある指導的立場の医師および指導経験の豊富な者を全日病プライマリ・ケア検討委員会で決定する。
- 認定方法：
 - 提供するカリキュラム達成記録を用い、本人が達成目標及び研修項目を決定しプログラムを開始する。
 - スクーリングに関しては、コースごとに所定の単位（詳細は別途定める）を取得することを条件とする。
 - 上記プログラムを終了した医師に対して、所属の施設管理者の履修証明と研修指導者の評価を総合的に判断して、別途設置する全日病の本事業認定審査委員会で認定する。
- 更新基準：本事業開始後1年の間に定める。

(処遇・費用負担)

- 処遇：常勤の勤務医師。
- 費用：研修費用は病院負担を原則とする。
- 勤務する病院が変更になる場合も、本事業へ参加する施設同士であれば、研修実績の継続を認める。

(全日病病院総合医育成プログラムの特徴)

- テクニカルスキルとノンテクニカルスキルをバランス良く修得できる。
(技術偏重ではなく、総合医に求められる全般的なスキルを重視)
- 個々の医師が、自己評価を行うことや、自らに必要なプログラムを選択できることにより、すでに十分なキャリアを有する医師自身の主体性に重きを置く。
- スクーリングの実施により、「単に診療の場を経験する」だけでは十分に獲得できない、正確かつ最新の知識に裏付けられた臨床能力の修得を図る。
- スクーリングでは Active Learning の手法を取り入れて、「激変するプライマリ・ケアの現場で新たな一歩踏み出せること」を目標とし、実践力の確実な修得を図る。
- ICT(情報通信技術)を活用した自己学習の仕組みを有する。

以上より、確実に目標に到達できる教育システムを導入している。